

学校 教育 目標	確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成	昨 年 度 の 評 価 概 要	＜令和4年学校評価 概要＞ ・感染対策を踏まえ、学習や行事、集会を年間を通じて実施しており、子どもも多くの経験ができています。 ・児童、保護者アンケート結果はともに、昨年度に比べて総じてよい評価となっていることから、学校全体として評価されていると思われる。次年度、コロナ対策の制限がなくなる中で、今年度の評価を活かした学校づくりが進むことを期待する。 ・子どもたちは、主体性をもって活動することにより、大人に対する信頼関係を築き、安定した学校生活に結びつくように思う。 ・高島町は大人しい土地柄で、穏やかで素直な子どもが多い。しかし、競争意識が弱いように思う。まだ余力があるように感じる子どもたちの活力を引き出させるような取組を期待する。	中 期 的 目 標	＜ 中期的【3年間】目標【2年目】 ＞ ○「学ぶ力の向上」をめざし、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善を進める。 ○義務教育9年間の学びの土台となる基礎基本の習得を徹底し、主体的な学び方を身につける。 ○児童理解を深め、主体的体験的な活動を重視し、ふれあいを基調にした教育活動を進める。 ○多くの人との関りを通し、自分の個性や可能性を信じ、よりよく生きようとする「志の教育」を進める。 ○家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。
----------------	--	--------------------------------------	---	-----------------------	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
【確かな学力の力点】 ●子どもを真ん中においた個別最適な学びと、協働的な学びになる授業改善 ●読書活動の活性化 ●特別支援教育の充実 ●自主学習の習慣を確立	中学校と一体となって授業研究やOJTに取り組み、思いを深め、達成感のある学びを実現する指導力の向上に取り組む。 【月1回のOJTの実施100% (教師)】 ・朝読書の充実や、読書環境の整備を進め、読書に親しむ児童を増やす。【読書冊数目標到達70%(児)/50%(保)】 ・ゆめノートを活用した家庭学習の充実に取り組む。 【家庭学習の時間を達成した児童が85%以上】	児童生徒が話し合いや交流をしながら学習を深める「学び合い」をキーワードにして、小中の教職員が共通の課題をもって授業研究に取り組んだ。授業参観や合同研究会を定期的に開催することができた。 【ペア・グループ学習 教職員100% 個に応じた指導 教職員100%】 ボランティアによる朝読書やお話の部屋におけるお話し会実施、貸出図書 の奨励により、読書に親しむ機会から本好きの児童も一定見られる。一方、児童と保護者の意識の差が大きい。【児童69.0%/保護者28.0%】 家庭学習の手引きや学年に応じた課題の工夫を行っている。 【家庭学習を頑張っている 児童80.4%/保護者55.3%/教職員94.1%】	A B B	●市立図書館と連携し、社会科などの学習内容に関連した本を教室に置き、発展学習に生かす等、読書へのきっかけの場を広げる。 ●課題意識を明確にしながら、授業研究や研修の場を学園合同で定期的に開催する。研修での学びを日常的に実践する。 ●家庭学習の手引きを保護者へ周知するなど、家庭やPTAとの連携をより深める手だてを探っていく。	・どの学年においても、意欲的に取り組む姿に感心している。学習には「楽しい学び」がないといけな い。 ・朝読書やお話会などの取組に加え、図書室やおはなしルームの環境づくりも充実している。 ・夢ノートについては、高学年になると内容を工夫したり、復習に生かしたりするなどの姿が見られる。
【豊かな心の育成の力点】 ●自分事として生き方を見つめる道徳教育の推進 ●心を耕し、豊かな感性を磨く教育活動の展開 ●主体性を引き出す児童活動の推進	・他の教育活動と連携した道徳カリキュラム(別様)を着実に進め、日常に立ち返る道徳教育を進める。 ・文化芸術に直に触れ、豊かな情操を養う。 ・中学校と連携した特別活動の活性化を図り、児童の主体性を引き出す活動に取り組むとともに、望ましいリーダーの育成を図る。 【学校生活の楽しさ:80%(児)/75%(保)】	年間計画に基づいて、道徳科の授業が丁寧に組み立てられている。高島藤樹会より外部指導者を招き、指導の充実を図った。【道徳の授業がためになる 児童92.8%】 4年生は高島市小学校音楽会で発表したり、他校の発表を鑑賞することができた。びわ湖ホール の音楽鑑賞会にも参加した。 校内における縦割り活動に加え、第1ステージの交流活動、第2ステージの体験学習の充実を図ることができた。 また、中学校文化祭への参加や陸上記録会に向けた中学生との合同練習等にも取り組み、児童にその成果が見える形で表れた。中学校生徒会メンバーと小学校児童会の連携も行うことができた。 【学校が楽しい 児童93.2%/保護者91.7%】	B C A	●道徳教育はすべての教育活動を通して行いながら児童の道徳性を育んでいくことを、改めて共通理解していく。 ●今年度はPTAに親子音楽鑑賞会を計画実施していただいた。音楽に限らず、広く芸術に触れる機会を設けていく。 ●校内での縦割り活動や中学校との交流活動は、計画されたものだけに限らず管理職やコーディネーター、担任間の連携で柔軟に実施していくことができる。その成果を子ども、教職員が共有することを大事にしたい。 ●インターネットリテラシーの育成はこれからの重要な教育課題である。タブレットの使い方を通じて指導を徹底する。	・校外学習や交流行事は児童にとって非常に刺激的であることが見て取れるので、それらを継続していくことが大事である。 ・豊かな情操は、文化芸術のみならず、田植えや稲刈り、花の栽培、他者とのふれあい等から育まれるものであり、それらを含めて評価するべきである。 ・音楽鑑賞やプロスポーツをはじめ、地域のプロなどその生き方にも触れさせたい。
【豊かな人間関係を結ぶ力の育成の力点】 ●相手の立場を尊重し、人権意識の高い、いじめを許さない集団づくり ●礼儀正しい節度ある生活態度(あいさつ、時間を守る、掃除)の育成	・児童集会や行事等を通じて、友達や多様な人々との交流の機会を増やす。 【学校生活の楽しさ:80%(児)/75%(保)】 ・人権意識を高める指導に加えて、中学校と協働した児童生徒の主体的な活動を通して、いじめ未然防止に取り組む。【いじめがなく学校生活が楽しい95%(児)】 ・真面目で誠実に学校生活を過ごす態度を育成する。 【あいさつ、時間、そうじ85%以上(児童)】	校内の縦割り活動や、ステージでの活動、中学校との交流活動等により、交流の幅が広がり、その中でリーダー性も育むことができた。 【学校が楽しい 児童93.2%/保護者91.7%】 毎月の人権の日では、人権に関する放送や講話、児童会目標の取組により、人権意識を高める機会を持つことができた。【学級の友達を大切にしたい 児童99.1%】【自分によいところがある 児童78.7%】いじめについては小さなものでも早期の組織対応を教職員で申し合わせ、丁寧に対応している。【いじめ認知件数 R5:10件 R4:3件 R3:6件】 挨拶をすると挨拶を返す児童は多い。掃除にも全体的にまじめに取り組んでいる。【あいさつ 児童90.3%/そうじを頑張る 児童93.7%】	A A B	●今後も児童の課題や活動のねらいを踏まえ、交流の幅や機会を広げるよう工夫していく。 ●人よりも先に自ら挨拶をする児童がさらに増えるよう日々の声掛けや指導を粘り強く継続する。 ●児童の学習や生活の様子を丁寧に見取り、いじめ等に関する課題には、学校いじめ防止基本方針に則り、保護者と連携しながら、確実に対応する。	・地域の体験行事でもグループ内での相談や活動などを協力して進める姿が見られ感心している。どのような場面でも、人となりが協力する力は大切に育てたい。 ・取組を通して、学年ごとの自覚や責任感が伺える。 ・学校生活での多様な交流を通して、各個人の社会性の形成もうまくできていると感じる。
【健康な心と体の育成の力点】 ●児童理解を土台にして、自己指導力の向上をめざす生徒指導の推進 ●命を大切に、健康で安全な生活実現を目指し、行動できる資質能力の育成 ●基本的生活習慣の確立と食に関する指導の充実	・生徒指導の3機能を意識した教育活動を展開し、一人ひとりの児童に居場所がある学級づくりを進める。 【学校生活の楽しさ:80%(児)/75%(保)】(再掲) ・児童理解のための教育相談の機能を充実する。 【困っていることを先生に相談できる85%(児)】 ・残食0日数の増加に取り組む。	児童に「自己決定の場を提供」「自己存在感の感受の促進」「共感的な人間関係を育成」することを意識しながら児童と接するよう申し合わせている。【学校が楽しい 児童93.2%/保護者91.7%】 児童の気持ちをきくアンケートの実施や、その結果を踏まえた個別面談で実態把握に努めている。不登校傾向児童や保護者にも丁寧に対応を行っている。【先生は相談しやすい 児童83.4%/保護者79.7%】 残食に関する全校的な活動はできていないが、食育を通して食べ物の大切さや感謝の気持ちを持つことの大切さ等について指導を行った。	A B B	●児童が安心し、生き生きと生活することができる学級づくりや指導、対応のあり方について、研修を行い教職員の更なる資質向上を図る。 ●日頃の連絡により、保護者とのつながりをより深めていくとともに、関係機関との連携も図っていくことでより適切な指導につなげる。 ●家庭における食事や睡眠、スマホやタブレットの使用状況など、児童の状況の把握に努める。	・健康な生活について、特に食事と睡眠、スマホ、タブレット、ゲームとの付き合い方に関する学びを継続いただきたい。 ・元気に登校している児童と、休みがちな児童が見られる。特に、後者への丁寧な対応をお願いしたい。 ・食に関する指導では、残食にこだわらず、より広い視点からのアプローチが必要である。
【小中一貫教育推進の力点】 ●小中合同授業研究会の充実 ●小中教員の交流指導による連続した指導の充実 【地域とともにある学校づくりの力点】 ●学校運営協議会と地域学校協働活動の連携 ●協働して地域全体で子どもの成長を支える風土の醸成	・中学校と一体となって授業研究やOJTに取り組み、思いを深め、達成感のある学びを実現する指導力の向上に取り組む。(再掲) ・小中教員の交流授業を進め、小学校の教科担任制と中学校での複数指導の拡充を図る。 ・学校運営協議会と協働し、地域学校協働活動を教育課程に位置付け、開かれた教育課程の実現に取り組む。	児童生徒が話し合いや交流をしながら学習を深める「学び合い」をキーワードにして、小中の教職員が共通の課題をもって授業研究に取り組んだ。授業参観や合同研究会を定期的に開催することができた。 【ペア・グループ学習 教職員100% 個に応じた指導 教職員100% 教職員の交流充実 教職員89.5%】 中学校加配教員の小学校での授業(理科)をはじめ、その他中学校教員が小学校での授業(音楽、書写)を行った。また、小学校教員が中学校へ出向いて授業(社会、数学)を行う機会も設けた。【教職員交流の充実 教職員89.5%】 学校運営協議会の協力と地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、多くの地域人材の協力を得て、学習の幅を広げ、内容を深めることができた。	A B A	●学園一体となった学校運営協議会により、小中一貫の視点で多くのご意見をいただき、学校経営につなげることができた。引き続きご意見をいただきたい。 ●学校地域連携カリキュラムをもとに地域人材の協力を得ることができた。本年度の成果を踏まえ、持続可能なカリキュラムへと見直しを進める。 ●教科担任制や交流授業は児童にとって有意義であり、人材確保や校内体制の工夫に努めたい。	・隣接型高島学園としてのよさを最大限に活用し、教科担任制や合同研究などの手法で、9年間を見通し、子どもたちのつながりを大切にしながら学力向上に向けて努力している。 ・小中学校のOJTの取組、教科担任制、地域学校協働活動、情報発信など、様々な角度からアプローチ出来ていて学校、地域、様々な方面から子どもの成長へ貢献できていると思う。

学校 関係 者 評価	総 評	評 定	学校関係者評価を踏まえての改善点
			●全体的に教育環境がよく整備されていて、子どもたちは伸びやかに学校生活を送っている。 ・「学校・直・地域」の関係ではなく、推進員さんの努力により、「支援から協働」へのよい関係が育ってきている。さらに、「地域はもう一つの教室」として、子どもも大人もともに「多様な人となりが」「多様な経験」ができる場を関係機関と連携しながら、「子ども」を真ん中にして、「学校」「家庭」「地域」が協働して進めていけるとよいと思う。 ・小中学校、PTA、地域が連携して土台となり、その中で具体的な学び、人との関わりを通して子どもは成長していると感じる。コロナ禍で、子どもはできていることを見つけて、やるべきことをやるような、問題解決能力が向上していると感じる。来年度も、土台としてのつながりを強めながら、子どもたちの生きる力の向上について考えていきたい。 ・行事だけではなく、日常の学校生活において、あらゆる地域人材が学校に溶け込んでおられ、地域の子どもの地域で育てる機運が醸成されていると実感している。今後は、SNS等を通じて、取組の経過も地域の人々に細かく伝わり、それに対するフォローが得られるような体制ができるとよいと思う。